

広島の子ン子ン電車



1

去年の八月、広島町を見慣れない色の電車が走りまわった。車体は青、窓枠から上が灰色に塗り分けられた電車です。

広島島の路面電車は、車体にカラフルな広告を施したのもありますが、基本的な色は車体がグリーン、窓枠から上は黄色で、一九五五年ころからこの色に統一されました。しかし、太平洋戦争のころは、青と灰色の二色に塗られていたのです。

一九四五年八月六日、広島市は原子爆弾によって壊滅します。あの日、市内を六十三両の電車が走っていましたが、そのほとんどが爆風と熱線のために軌道を外れ、その後の

大火災で燃え上がりました。もちろん乗客もいっしょでした。これらの電車も、みなこの色に塗られていたのです。

広島町の電車が走り出したのは、一九一二年です。発車のさい、運転席の天井のひもを引っ張ったり、足もとのまるいペダルを踏んで鈴をならしました。その音から、チンチン電車と呼ばれ、町の人に親しまれてきたのです。

太平洋戦争が激しくなると、電車の運転手や車掌たちも、次々と戦場に送られるようになりました。そのため電鉄会社は三年制の「広島電鉄家政女学校」という学校を設立しました。この学校に入学すると、一日のうち半日、電車の運転手や車掌として勤務し、あとの半日は授業を受けることができました。少しではありますが給料ももらえました。生徒数は三百人ほどで、全員が学校の寮で生活していまし